

令和2年度 東国文化自由研究レポート



研究テーマ

太田天神山古墳の被葬者は
どのような人物だったのか

提出日 令和2年8月24日



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 2組 . 16番

氏名 丹治 心

太田天神山古墳の被葬者はどのような人物だったのか？

今から約1300～1700年前、古墳時代の古代群馬県は「東の大和王権」と言ってもいいほど栄えていました。そのことは、東日本随一の古墳数、県内に古墳総数1万3249基が造られていたことから推測することができます。（正確に言えば千葉県に次いで第2位の古墳数ですが、古墳の規模などの質からすると東日本随一とされています）

私は元々、古墳の形や、副葬品に興味があり小学4年生の頃に高崎の保渡田八幡塚古墳や井出二子山古墳、綿貫観音山古墳を訪れたことがありました。

今回私が調べたのは「太田天神山古墳」です。太田天神山古墳について、存在は知りつつも、整地されているわけでも、近くに資料館があるわけでもなく、情報が少なく掘り下げることができるのか、不安はありましたが、自宅から歩いて5分の距離にある太田天神山古墳がどのような古墳だったのか、この機会に調べてみようと思いました。

今回のテーマについて、最大の謎だと言える、「太田天神山古墳の被葬者」を自分が調べた資料、見学した歴史館で得た情報から「権力」、「女体山古墳」、「ヤマト王権との繋がり」の3つの観点から、仮説を立てて綴ります。

太田天神山古墳 とは？

別名	男体山古墳(なんたいさんこふん) 1941年に国の史跡に指定
場所	〒373-0813 群馬県太田市内ヶ島町1606-1 東武伊勢崎線 太田駅の東方約1kmの平地
形	前方後円墳
大きさ	墳丘の長さ:210m 高さ16.5m 【東日本最大・全国28位】
製造時期	5世紀前半-中期頃
被葬者	不明

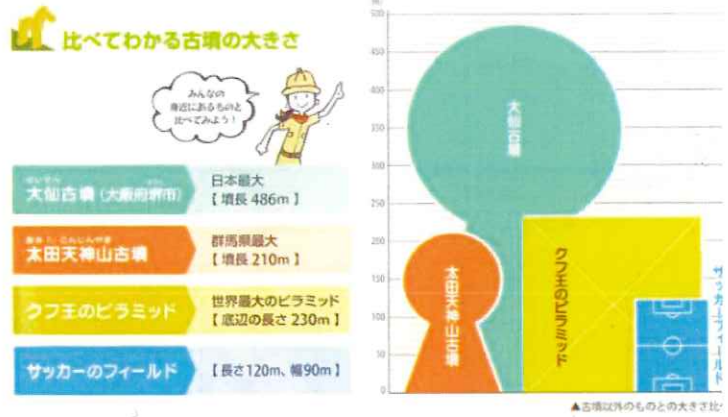
太田天神山古墳



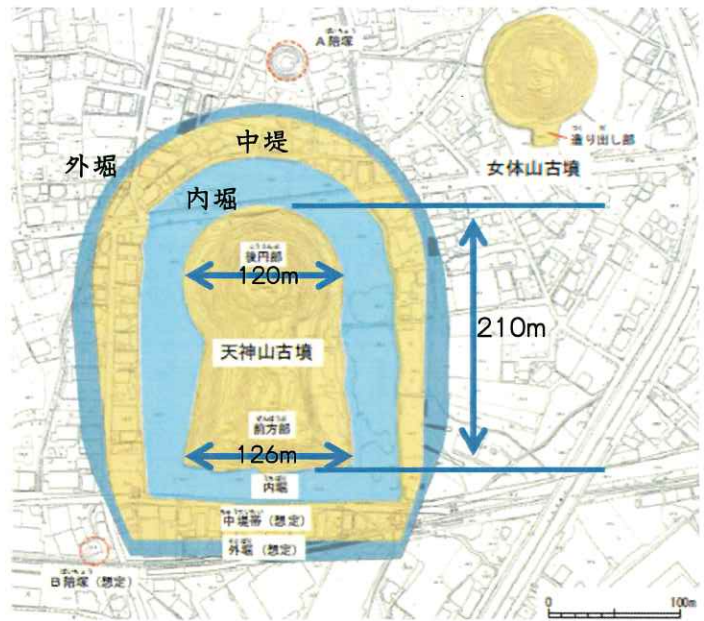
仮説1. 太田天神山古墳の被葬者の権力は東日本最大だった

(1) 古墳の大きさ

太田天神山古墳は東日本最大、全国でも28位でもある墳丘の長さは、実に210mを誇ります。この大きさはなんと、サッカーグラウンドより大きく、世界最大のピラミッドであるクフ王のピラミッドの底辺の長さとはほぼ同じ大きさです。



太田天神山古墳は
 墳丘:3段築成
 ・墳丘全長 210m
 ・後円部直径 120m、高さ 16.5m
 ・前方部長さ 92.5m
 ・前端幅 126m、高さ 12m
 ・馬蹄形の2重の周堀(内堀・外堀)
 ・墓域は南北 355m・東西 290m
 前方部は南西に向けられており
 墳丘は、現在では雑木林になっていますが、墳丘表面には前期古墳と中期古墳に多い葺石(河原石や礫石)が認められており、周濠を含む全域は 364m×288mにも及びます。



これほどまでに大きな古墳の作成には、1日に1,000人の労働者に太田天神山古墳の土を盛らせると考えると112日間もかかるそうです。それに加え、二重の周堀(内堀・外堀)を掘る事、古墳に盛る土を運び整地する事、墳丘表面に敷き詰めた葺石の運搬、副葬品の家形埴輪、水鳥形埴輪、後円部の頂上に置かれていたと考えられている器財埴輪、中堤帯には円筒埴輪、多種さまざまな埴輪の作成と陳列、他にも古墳を造るためにするべきことは沢山あります。

現在であれば機械の力を借り、短期間で造れるかもしれませんが、何もない当時、人の手で作るのですから、相当な費用と時間、それと人の手、またその仕事をされる方々に支払われる給料が必要だったと考えられることから、被葬者は相当な財力も持った権力者だと考えられます。

(2)長持形石棺

また、太田天神山古墳からは長持形石棺の破片が出土されています。

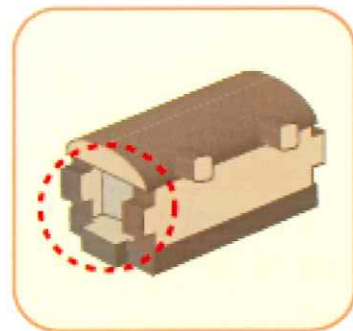
5世紀代のヤマト王権における大王の古墳、もしくは地方の巨大な前方後円墳に使われていた石棺の種類です。

このことから、太田天神山古墳の被葬者が強大な権力を持った毛野地方における首長の墓であったと想像することができます。

長持形石棺(想定)



長持形石棺の破片



長持形石棺
(イメージ図)

長持形石棺について

長持形石棺は古墳時代中期に多くみられる石棺。長持とは衣類や寝具の収納に使用された長方形の箱、その箱に似た石造りの棺桶だったので長持形石棺といわれているようです。

石棺の石材は、知元産を使っているが、石を削って形を造る作業は難しいため、ヤマト王権が専門の工人を特別に派遣したと考えられており、その背景から太田天神山古墳の被葬者とヤマト王権とが同盟関係にあったことが推測されています。

長持形石棺が出土した場所

関東地方では2基、2基とも群馬県から
 ヤマト王権の中心、近畿地方では20基
 (奈良県4基、大阪府7基、京都府5基、兵庫県4基、
 このほか、出土がわかっていない物が約10基存在)、
 中国地方では4基(岡山県3基、島根県1基)
 九州地方では2基(福岡県1基、佐賀県1基)が確認されています。

群馬県からの長持形石棺出土は、P3「長持形石棺(想定)」にも掲載しています、
 国立歴史民俗博物館に複製品が展示されている伊勢崎の「お富士山古墳」と
 もう一つが「太田天神山古墳です」。

上記の出土場所や古墳の大きさからもわかるように、長持形石棺が出土した古墳は、
 主に古墳時代中期の天皇陵古墳や各地の最有力首長の埋葬に採用された傾向が
 あり、畿内では「王家の石棺」といわれ大王級の古墳でしか見られなどされています。

※伊勢崎の「お富士山古墳」について

伊勢崎市安堀町799番地にある、
 全長125メートルの5世紀中頃の
 前方後円墳、市指定史跡、
 1966(昭和41)年指定。
 群馬大学の調査では墳丘は
 3段築造され、葺石が巡り、
 大型円筒埴輪の配列が確認され
 ています。



お富士山古墳の
 長持石棺は、全長
 285cm、幅121cm、
 高さ115cm、重さ約6.8
 トンもあり、使用された
 石棺は後円部墳頂の



富士神社脇に保存されています。

太田天神山古墳と同時期に建造されている古墳なので、長持形石棺も近い
 形の長持形石棺が造られたのではないかと推測できます。

(3) 太田天神山古墳と同じ大きさの古墳

日本国内には天神山古墳と同じ墳丘210mの大きさの古墳が2基あります。

① 築山(つきやま)古墳

奈良県大和高田市

形状は前方後円墳。

後円部径約 119m、前方部幅約 103m、
(太田天神山古墳の方が前方部が若干大きい:差23m)

墳丘の周囲を濠がめぐり、内部構造の詳細は不明だが、竪穴系の埋葬施設が存在すると推定されています。

採取された埴輪片から4世紀後半の

築造が考えられ、周辺に大小古墳があり、馬見古墳群を構成する古墳の1つです。

築山古墳は宮内庁により「陵墓参考地」(皇族の墳墓)に指定されていて、被葬者は第23代顕宗(けんむ)天皇といわれている説、第25代武烈(ぶれつ)天皇といわれている説があるようです。



② 西陵(さいりょう)古墳

大阪府泉南郡岬町淡輪

形状は前方後円墳、

後円部直径約 115m、

前方部幅約 100m

(こちらも太田天神山古墳の方が後円部が5m、前方部幅20m大きい)

墳丘は三段築成で現在も残っています。

築造年代は、出土埴輪から5世紀前半の西暦 420 年～440 年頃と推定されています。

埋葬施設は明らかでないが、

竪穴式石室に凝灰岩製の長持形石棺を納めていたと推測されていて、太田天神山古墳と同じです。被葬者は確定されていませんが、一説には『日本書紀』雄略天皇 9 年 3 月条・5 月条に見える 5 世紀後半の将軍の紀小弓(きのおゆみ、紀小弓宿禰きのおゆみのすくね)とも五十瓊敷入彦命(いにしきいりひこのみこと)ともいわれている説があります。



この奈良県大和高田市 築山古墳と大阪府西陵古墳の2つの古墳にはいくつかの共通点があります。その1つに「天皇」に関わりがあるということです。

築山古墳に関しては、被葬者が第23代顕宗天皇である説と第25代武烈天皇である説がありますがどちらにしても当時、国を治めていたもっとも権力のある人の古墳であることに違いありません。

西陵古墳に関しても、被葬者は紀小弓宿禰とありますが、「日本書紀」から雄略天皇の御代に新羅(しらぎ)との戦いに派遣した大將軍(おおいくさのきみ)とあり、新羅の王を逃走させるものの、病気で戦地で没、「田身輪邑」(たむわのむら)＝現在の大阪府泉南郡岬町淡輪に墓を築いたとあり、天皇の命を受けて大將軍の墓を造ったとされています。

このことから考えると、同じ大きさの太田天神山古墳も天皇のような、またそれに近い、相当大きな権力を持っていた人だと考えられます。

そして現在、東日本には太田天神山古墳より大きな古墳は、発見されていないことから「当時、太田天神山古墳の被葬者は東日本で最大の権力と財力を持っていた」ということが考えられます。

仮説二、太田天神山古墳と女体山古墳の密接な関係

太田天神山古墳のすぐ近くに女体山古墳という、全国的にも珍しい帆立貝形古墳があります。

女体山古墳 とは？

名称	女体山古墳(にょたいさんこふん) 昭和2年4月8日 国史跡指定
場所	〒373-0813 太田市内ヶ島町1506-1 太田天神山古墳の東側
形	帆立貝形古墳
大きさ	墳丘の長さ106m、円丘部84m、 高さ7m、造り出し部幅18m、長さ16m 【帆立貝形古墳の中では全国2位】
製造 時期	5世紀前半
被葬者	不明

女体山古墳



女体山古墳は太田天神山古墳と同じ、帆立貝形古墳の中では東日本最大の古墳です。

女体山古墳と太田天神山古墳は設計するのに同じ尺度(晋尺(1尺 = 24センチ)の25尺を単位として設計)を用いている可能性があることや、同じ方向を向いて造られていること、ほぼ同じ時期に造られていることなどから、2つの古墳の

葬られた人たちの間には密接な

関係があったと考えられています。では、密接とはどのような関係か、その名前から天神山古墳の被葬者と女体山古墳の被葬者は夫婦だったのではないかと想像が付きませんが、古墳名称の「女体山」は、隣接する「男体山古墳」(太田天神山古墳の別名)に対するものであって埋葬者は「女性」であるわけではないと思います。それは同時代に女性のための古墳が残されるケースは数少ないからです。では女体山古墳の被葬者はだれなのか、太田天神山古墳と密接な関係があったことに間違いはないので、親子または兄弟の血縁関係か、大きな権力を従えていた首長の右腕といわれるような側近だったのではないかと考えます。

また、女体山古墳は天神山古墳と同時期、または少し前の時期に建造されたと考えられている為、東日本最大の帆立貝形古墳を建造できた太田天神山古墳の被葬者は第1仮説同様に相当な権力・財力の持ち主だったのでではないか、と考えられます。

女体山古墳と天神山古墳位置



帆立貝形古墳について

帆立貝形古墳(ほたてがいしきこふん)は、前方後円墳の変形版とされることもありますが、円墳に小さな方形の張り出しが付いたような形状の古墳になります。名前からもわかるように、ホタテ貝貝殻のような形に見えます。

前方後円墳の変形ととらえられる場合の多くが、その築造が前方後円墳と同時期と考えられることからなのですが、帆立貝形古墳として作られたものが変形したものかの判断が付きにくく、詳細が難しい古墳でもあります。

群馬県内では、女体山古墳の他、太田市竜舞の塚廻り古墳群(4基の帆立貝形古墳が存在)、伊勢崎市の赤堀茶臼山古墳、高崎市の若宮八幡北古墳、同じく高崎市の上芝古墳などが帆立貝形古墳として残されています。

仮説三：太田天神山古墳の被葬者はヤマト王権と繋がりがあった

太田天神山古墳からは円筒埴輪や鶏型埴輪、家形埴輪、水鳥型埴輪等の埴輪類や、土師器数種が発見されています。

これらの埴輪はすべて、近畿地方の技術を使って造られています。

太田天神山古墳が造られた時期は五世紀前半から中葉の時代だと考えられています。その頃は古墳時代中期ですので近畿地方には日本で最も大きな権力を持っていた、ヤマト王権があります。

つまり、近畿地方の技術を使った埴輪が発掘されているということは、太田天神山古墳はヤマト王権の技術が用いられているということです。

当時、ヤマト王権に認められないと大きな古墳や、埴輪は造れないわけですから、この太田天神山古墳の被葬者はヤマト王権と何かしらの形で繋がりがあったということが考えられます。

また、天神山古墳からは大量の武器・武具の服装品があったことから、軍事的指導者としての性格を表してきた、首長の性格を表しているとされています。

そして、天神山古墳は

仮説一でも述べたように東日本で最大の古墳ですから、ヤマト王権の中でも、とても高い位にいた人だったと推測できます。

円筒埴輪（参考）



家型埴輪（参考）



水鳥型埴輪（頭部のみ）



土師器（参考）



～調査のまとめ～

太田天神山古墳の被葬者は、「権力」、「女体山古墳」、「ヤマト王権との繋がり」の3つの観点からみると「ヤマト王権に関わりのある、天皇と同じような権力を持った東日本最大の首長」だということが私が調べたものからわかる太田天神山古墳の被葬者像です。ただし、この全域を支配し、太田天神山古墳のような巨大な前方後円墳を造れたのはこの被葬者一代限りでその後は、また古墳が近隣に多々築造されていることから、各地域に同規模の豪族が首長として権力を持ってきたと想定できます。古墳時代は規模の大きなお墓を造る事で自分の権力の大きさを示していたのだと考えました。

* 感想 *

家の近くにこんなに素晴らしい古墳があったのだと調べていて感じました。調べる前は「近くにある大きな古墳」、古墳と言うより森？というイメージしか持っていませんでしたが、東国文化自由研究をきっかけに太田天神山古墳を調べて、それまで持っていたイメージが大きく変わりました。天皇が眠っているとされる古墳と同じ大きさであったり、ヤマト王権との繋がりがあったりと調べれば調べるほど興味深く、自宅からほど近い場所に、はるか昔に大きな権力の持ち主が埋葬される場所が造られていたと考えると、今で言えば近所にオリンピックのスタジアムが造られるような感覚に近いのではないかな、と想像すると興奮しました。

また、調べていく中で、群馬県古墳の数が減っていることに気が付きました。実際に今回調べた、太田天神山古墳は国の史跡でありながらも、土地開発や道路開発のために一部の外堀・内堀が無くなってしまったり、何度か通いましたが駐車場はあるものの、そこに行くまでの案内や道は整備されておらず、なぜ、これほどまでの古墳がこの状態で放置されているのかとても残念に思いました。

太田天神山古墳に限らず群馬県には質がとてよく、大きな古墳が沢山残されています。太田市飯塚町からは「挂甲武人埴輪」(けいこうぶじん / 東京国立博物館蔵)が出土されていて、国宝に指定されるなど優れた埴輪の出土する土地でもあります。



それらの古墳や出土品は未来の子供たちに語り継ぐべき、最高の教科書です。それを壊してしまうのはもったいないとしか言うことが出来ません。この素晴らしい古墳を「どのように語り継いでいくか」、「どのように守っていくか」が今を生きる私たちの課題だと思います。生きるすべを造っていた先人たちと唯一繋がることのできるものを、先人たちが残してくれたものを守っていきたく私は強く思いました。

参考文献

- ・太田市立新田荘歴史資料館 {7月24日 見学}
- ・太田市立藪塚本町歴史民俗資料館 {7月24日 見学}
- ・東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう～
- ・太田天神山古墳外堀発掘調査報告書
- ・天神山古墳外堀・A 陪塚範囲確認調査
- ・太田市教育委員会教育 太田市作成リーフレット
「国指定史跡天神山古墳・国指定史跡女体山古墳」
- ・ぐんま古墳探訪 見て学ぶ東国文化の輝き
- ・HP 宮内庁 所蔵資料詳細
- ・ぐんま! トリビア図鑑★太田 天神山古墳はなぜ凄い! ?
(群馬テレビ 2020年7月21日放送)
- ・群馬県ホームページ ぐんまキッズページ 東国文化
- ・群馬県伊勢崎市ホームページ 史跡 お富士山古墳
- ・女性首長と軍事権 大阪大学 清家 章
- ・HP 文化遺産の世界 <https://www.isan-no-sekai.jp/>
→日本の古墳の特徴とその世界観 https://www.isan-no-sekai.jp/feature/35_02
- ・HP 大阪府堺市 古墳大ききランキング <https://www.city.sakai.lg.jp/index.html>
- ・HP Travel & Partal WEB GUNMA(群馬の魅力紹介) <http://www.webgunma.com>
- ・HP 古墳マップ <https://kofun.info/>
- ・HP ニッポン旅マガジン <https://tabi-mag.jp/>
- ・HP じゃらん.net <https://www.jalan.net/>